

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-133	A-169	20-411	厚生会 道ノ尾病院 福嶋翔 独立行政法人国立病院機久里浜医療センター 松下幸生
題名 (原題/訳)			
Trajectories of Alcohol Initiation and Use During Adolescence: The Role of Stress and Amygdala Reactivity 青年期のアルコールの開始と使用の軌跡：ストレスと扁桃体の反応の役割			
執筆者			
Elsayed NM, Kim MJ, Fields KM, Olvera RL, Hariri AR, Williamson DE.			
掲載誌			
J Am Acad Child Adolesc Psychiatry. 2018 Aug;57(8):550-560. doi: 10.1016/j.jaac.2018.05.011. Epub 2018 Jun 18.			
キーワード			PMID
扁桃体, 脳機能画像, 成長混合モデリング, 腹側線条体			30071976
要旨			
<p>目的： 早期のアルコール使用は、成人期になってからアルコール使用障害の発症を予測する。しかし、アルコール使用開始の発達の軌跡や、それらの推定上の生物学的および環境的相関についてはほとんど知られていない。</p> <p>方法： うつ病に関して家族性負荷が高いまたは低い青年 (n=330) は、最大6年間、毎年評価された。情動症状や、アルコールの使用、ストレスの各評価で評価されたデータが収集された。青年達はまた、脅威に関連する扁桃体や、報酬に関連する腹側線条体の活動を測定することを含めた fMRI 研究実施要領に参加した。</p> <p>結果： 潜在クラス分析により、アルコール使用開始の2つの軌跡が特定された。早期に開始した者 (n=32) は、遅く開始した者かつ/または現在の禁酒家 (n=298) と比較して、ベースラインのアルコール使用量と使用の変化率が高いと報告された。早期に開始した者は、ストレスの多いライフイベントのベースラインレベルがより高く (p=0.001)、扁桃体が高い (p=0.001) と報告されたが、腹側線条体の活動は示さなかった。</p> <p>早期に開始した者は遅く開始した者と比較して、最大量の飲酒をする可能性が 15.3 倍 (p<0.0001)、中毒を経験する可能性が 9.1 倍 (p<0.0001)、アルコール使用障害を発症する可能性が 6.7 倍高かった。 (p=0.003)。</p> <p>結論： 早期にアルコール使用を開始した青年は、ストレスのレベルが高く、脅威に関連する扁桃体の活動が増加し、最大量のアルコール飲料を消費する可能性が高く、早期に中毒を経験する可能性が高く、アルコール使用障害の発症のリスクが高くなる。</p>			